

名称	虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会	担当者	東 千恵子
開催日	定例開催は 7 月と1月 その他随時開催	設置	各事業所

【目的】

利用者の安全と権利擁護の観点から、適正な支援が実施され、利用者の自立と社会参加のための支援を妨げることはないよう、必要に応じ委員会を開催し、虐待の防止に努めることを目的とする。

【対象者及び参加者】

- ・委員長：虐待防止責任者（事業所長）
- ・副委員長：虐待防止マネージャー（副事業所長または主任）
- ・委員：介護職員や看護師など事業所の職員
利用者の代表、家族の代表、第三者委員、他事業所の虐待防止責任者

【年間計画】 下記その他虐待通報案件の発生時など虐待防止委員長が必要と認めた場合随時開催

時期	内容
7月	・1回目セルフチェックリストの集計結果の分析報告 ・12月～5月の事故ヒヤリ・苦情・通報案件の報告 ・身体拘束適正化の検討
1月	・2回目セルフチェックリストの集計結果の分析報告 ・全職員研修実施の報告 ・6月～11月の事故ヒヤリ・苦情・通報案件の報告 ・身体拘束適正化の検討

【実施状況】

①愛光園②のぞみの家③まどか④ファーム⑤もちの木園⑥居住⑦りんく⑧らいふ⑨就トレ⑩おひさま⑪高齢

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
7月	18日	16日	13日	26日	17日	19日	10日	8日	14日	28日	31日
1月	16日	21日	11日	31日	29日	31日	22日	27日	17日	19日	29日

※上記の他虐待案件があった場合は都度開催していた。

【報告内容の特徴】

定例の虐待防止委員会を開催して3年になる（身体拘束適正化委員会は2年）。仕組み作りに始まり、虐待防止推進会議で運営のバックアップをすることで、各事業所での運用がスムーズになった。全事業所がセルフチェックリストの実施を年2回行い、年度初めと年度末の変化を追った分析を委員会内で報告している。様々な報告内容の中でもこのセルフチェックリストは事業所を映す鏡である。特に『利用者へのぞんざいな対応』『虐待と思われる行為』『上司とのコミュニケーション』『悩み・やる気・体調』の項目の集計結果はどの事業所も注目している。チェックが入っていても自由記述に無記載だと、何を見てぞんざいとおもったのか、虐待と思ったのか分からない。チェックした人を探し出す行為は、むしろ率直な意見を出しにくくするため難しい。そのため、事業所によっては、後日『自分たちの支援の中で見方によっては虐待と思われる行為』というテーマで、グループワークを行った。普段の場面を出し合ったことで、個々の職員が意識できていなかった部分、意識している部分を共有しあえたことがよかったとの報告があった。このように事業所ごとにチェックリストの活用にも努めていく。そして、自由記述に記載しやすくし、集計の労力削減のために、一部の事業所のみ導入している Google フォームを積極的に活用する方向を虐待防止推進会議で確認した。また、委員会へのご本人の参加はごく一部の事業所のみになっている。ご家族や第三者委員、他事業所の虐待防止責任者からは、忌憚のない意見を頂いている。中にはやれている部分への労いの言葉を頂くこともあり、出席していない職員に伝えることで、モチベーションに繋がっている。感謝しながら来年度も真摯に取り組んでいきたい。